

一、次の①～⑩の傍線部のカタカナを、漢字に改めて答えなさい。

- ① キゾンの諸学説を受け入れる。
- ② 歴史とは文化的な産物のタイセキに他ならない。
- ③ ジツシヨウメイダイの正しさを確認することは不可能である。
- ④ シゲキを与えないように接する。
- ⑤ アカデミズムがヘイソク状況に達する。
- ⑥ 欧米の学問をガイカツ的になぞる。
- ⑦ ムサンカイキュウの民主的な政治参加を説く。
- ⑧ 自由や平等はチュウシヨウ的な価値である。
- ⑨ 精神をコブし、高揚する。
- ⑩ 権力のソウシュツこそが革命の議題である。

二、次の①～⑩に関し、語句の意味として適当なものを、後のア～コから選んで記号で答えなさい。

- ① 足がつく
- ② むねをつく
- ③ たてをつく
- ④ 息をつく
- ⑤ 目鼻がつく
- ⑥ 尻に火がつく
- ⑦ 土がつく
- ⑧ 肺腑をつく
- ⑨ 足元に火がつく
- ⑩ 板につく

- | | | | | | |
|---|-------------|---|------------|---|---------|
| ア | 思いが急につのる | イ | 一休みする | ウ | 勝負に負ける |
| エ | 反抗する | オ | 危険がせまっている | カ | 調和する |
| キ | 見通せる | ク | 心に深く感銘を与える | ケ | 犯行が露見する |
| コ | 身近にさしせまっている | | | | |

三、 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

日本の近代化に一種の不毛さがつきまとうのは、それが西洋の模倣に終始したからなのではない。ミネーシスつまり模倣は、創造力および想像力の基盤にほかならないのであって、西洋を模倣すべく努力を注いだことそれ自体については、日本人はなんら恥じる必要はないのである。恥じなければならぬのは、むしろ、その模倣が中途半端なものにとどまったという点についてであろう。

つまり日本は①西洋の表面のみをなぞって、その裏面にまで洞察を及ぼそうとはしなかったということである。西洋の表面、それは産業化と民主化にたいする信念であり、また、その信念にもとづく産業化と民主化の実践である。日本が模倣したのはこの信念と実践に関してなのだ。その結果、日本は産業化と民主化という基準においてどうやら②西洋を追い越すに至つたらしい。

これをもって日本民族の優秀さの証とみるものもあるし、レイト・カマーの有利さのおかげとみるものもある。たしかに日本人の勤勉さは世界に（X）を抜いているし、また西洋という③先行者が多大な時間と費用をかけて獲得した産業化と民主化の成果を、日本は短期かつ④廉価に習得することもできた。

しかし忘れてはならないのは、日本が模倣したのは西洋の表面についてのみだということである。西洋の裏面には、近代化にたいする疑念がわだかまっていたし、今もおおそうである。産業制の果実である物質的な富裕と民主制の帰結である社会的な平等、つまり「富裕と平等」を野放図に追い求めることへの懷疑が西洋にあつて持続している。日本はこの近代化への懷疑を模倣しなかった。まったく模倣しなかったわけではないものの、「富裕と平等」への体系的な懷疑は、この島国にあつてついに発達しなかったのである。逆にいうと「富裕と平等」という価値を楽観的に信じたからこそ、日本は産業化と民主化をB未曾有の速度で推進することができたわけである。

明治維新の前年つまり一八六七年にボードレルが死去している。『悪の華』で名高いこの詩人は、いわば、近代のただなかにおいて

生長する憂鬱の心情に芸術的表現を与えた人物だといえよう。そしてボードレールが死を迎えたとき、ニーチェは二十三歳になっており、近代にたいする思想的な攻撃を全面的に繰り広げるための準備をほぼ完了していた。ちなみに彼が（Y）を書きはじめたのは一八六三年である。

十九世紀後半の西洋における^④こうした思想の動きは、一口でいって、ニヒリズムの^⑤胎動^{（イ）}ということである。「富裕と平等」という世俗的な価値にたいする虚無感ばかりでなく、その世俗の価値を根底において支えてきた理性信仰もまた、虚無にさらされた。さらに理性信仰を産み落とすに当たって、直接間接に大きなかわりをもってきたキリスト教的な世界観および人間観にも虚無が差し向けられた。

西洋がおのれ自身に虚無を抱きはじめてまさにそのとき、日本は西洋への軽信に駆られて近代化に着手したわけである。この行き違いはもちろん、彼我のあいだの歴史の発展段階のずれによるものであるが、同時に、^⑥日本のがわにおける特殊な事情がその行き違いをいっそう際立たせましたのである。その特殊な事情とは、日本にあつてはニヒリズムの意味するところをきちんと理解するための思想的背景が欠けているということである。「神は死んだ」（ニーチェ）という文句がニヒリズムを端的に表現するものであるが、その肝心の神の観念が日本にあつて希薄である以上、神の死にたいして強い虚無感を抱くことは日本人にはできないのである。

同じことは理性にたいするニヒリズムについてもいえることだ。人間が自己のうちに理性のかぎりない発展の可能性をみて、それゆえに人間は神に代位しうるような完全性を保有しているとみなすのが理性信仰ということであろうが、そもそも日本にあつてはこうした理性への強い執着がなかった。したがって、日本人は理性の内部における混乱や葛藤にたいして大して虚無を感じずにすんだ。

（西部邁『日本の保守思想』。設問の都合上、一部改変）

- 問一 波線部A「廉価」・B「未曾有」・C「胎動」に関し、語句の意味をそれぞれ説明しなさい。
- 問二 傍線部①「西洋の表面」とはどういうことか。二十字以内で説明しなさい。(句読点も字数に含む。以下同様。)
- 問三 傍線部②「西洋を追い越すに至った」とあるが、なぜ追い越すことができたのか。その理由を文中から抜き出しなさい。
- 問四 空欄（X）に当てはまる漢字を一字で答えなさい。
- 問五 傍線部③「先行者」と逆の意味で使われている語句を文章中から抜き出しなさい。
- 問六 空欄（Y）に当てはまる作品名を、記号で答えなさい。
- ア 『国富論』 ∴ 産業革命以後における経済学書。
- イ 『反時代的考察』 ∴ 時代にたいする批評集。
- ウ 『民主主義と教育』 ∴ 民主主義社会における教育論。
- エ 『神曲』 ∴ カトリック教会の教えを体現したキリスト教文学。
- 問七 傍線部④「こうした思想の動き」とあるが、「こうした思想の動き」の特徴を端的に表した表現を文中から七字で抜き出しなさい。
- 問八 傍線部⑤「日本のがわにおける特殊な事情」とあるが、どのような事情か。三十字以内で説明しなさい。
- 問九 二重傍線部「日本の近代化には一種の不毛さがつきまとう」とあるが、「西洋を追い越すに至った」ほどの日本の近代化のどのような点に筆者は「不毛さ」を感じているのか。以下の語句をすべて用いながら、百三十字以内で説明しなさい。
- (語句) 産業制・平等・模倣・理性・虚無・神

受験番号	氏名	採点

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

三	問一	A	B	C	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九

